福岡市美術館 季刊誌 エスプラナード APRIL. 2020

ESPLANADE

FUKUOKA ART MUSEUM

新たな"仲間"を紹介します！

199

見てから読むか

所蔵品紹介

華やかな作品に込められた、多層の意味を読み解く

地球儀の頭部をもつ女性がライフルを構え、銃口からは満開の桜が放たれています。インカ・ショニバレCBEが、2019年春、福岡市美術館のリニューアルオープンと日本初個展を記念し制作した作品です。

本作で用いられている、ショニバレのトレードマークでもある色鮮やかな布は「アフリカンプリント」と呼ばれますが、実はアフリカ発祥ではありません。この布には19世紀末から20世紀初頭頃に、英国やオランダで製造されたバティック（ジャワ更紗）の模倣（モホー）品が西アフリカに輸出され、現地に受け入れられ現在の形になったという歴史があります。植民地主義の時代に生まれたハイブリッドな存在＝「アフリカンプリント」は、大英帝国の植民地だったナイジェリアにルーツがあるショニバレにとって、西洋社会から求められる「アフリカらしさ」の固定概念を転覆させ、現在も続く権力構造や格差の問題、そして豊かな文化の混淆を示す媒体になりました。

「アフリカンプリント」で仕立てられたドレスは、鹿鳴館スタイルのもととなった英国・エドワード朝様式のもの。このドレスをまとう華奢な女性は、西欧列強に対抗すべく急激な変化を受け入れ欧化政策を進めていた明治期の日本の姿といえるかもしれません。では、そんな日本が仮託された女性はライフルをどこに向けているのでしょうか。放たれているのが、交配による多様性を暗示するハイブリッドな桜であることに、ありえなかった過去と新たな未来を再構築しようとするショニバレの意志を指摘できるでしょう。

さらに本作は女性のエンパワーメントを主題としています。頭部の地球儀には、19世紀から現在までに不平等と闘い、権利獲得に寄与した女性たちの名前が記されているのです（日本には、加藤シヅエ、市川房江、田中美津、上野千鶴子の名が記されています）。そこから本作を、女性たちの力が時空を超えて集結し、見事な桜に結実していると読むことも可能でしょう。エネルギーの塊のような桜は、創造／想像の力によるものに違いありません。

女性が社会の中で闘ってきた歴史は、黒人であり、身体に障害があり、様々な抑圧に抗いながら作家活動を続けてきたショニバレにとって共感できるものでした。本作は、「力を合わせれば、社会変革は可能である」というエールとも言えるのではないでしょうか。ショニバレの作品と、その背景にある歴史は、私たちの現在とも接続しているのです。

学芸員（近現代美術担当）
正路佐知子

Copyright Yinka Shonibare CBE, 2019. Courtesy of James Cohan Gallery, New York
Photo: 山中慎太郎（Qsyum!）

読んでから見るか

《桜を放つ女性》

インカ・ショニバレ CBE

Yinka Shonibare CBE

DATA

制作年	2019年
技法・素材	マネキン、綿布、地球儀、鋼鉄、真鍮、亜鉛合金、木、樹脂、絹
サイズ	193 × 436 × 244cm

Yinka Shonibare CBE

Yinka Shonibare CBE 2014　Photo: RA Marcus Leith.

1962 年英国生まれ。3 歳からナイジェリア・ラゴスに暮らし、17 歳でロンドンに戻り、バイアム・ショウ・スクールで美術を、ゴールドスミス・カレッジ修士課程で芸術学や哲学を学ぶ。2002 年ドクメンタ 11 参加、2004 年ターナー賞ノミネート、2001、2007、2016 年ヴェネチアビエンナーレ参加。2005 年大英帝国勲章第五爵士（MBE）、2019 年に同三等爵士（CBE）を受勲。ポストコロニアルとフェミニズムの思想に基づき、いわゆる「アフリカンプリント」と呼ばれる布を用いて、植民地主義時代から現代にいたる歴史や社会の構造に対し鮮やかに切り込む作品を制作。

美連協大賞
「優秀カタログ賞」「優秀論文賞」受賞！

美術館連絡協議会（美連協）加盟館主催の優れた展覧会企画や図録に贈られる「美連協大賞」。このたび、リニューアルオープンの年に開催した当館主催の企画展の 2 展が、同賞のうち優秀論文賞、優秀カタログ賞を受賞しました。

「インカ・ショニバレ CBE：Flower Power」を企画担当した正路佐知子の図録論文が、優秀論文賞（自主展部門）を受賞。そして当館が他 5 館と共同企画した「富野由悠季の世界」の企画内容と図録（担当：山口洋三）が、優秀カタログ賞（自主展部門）を受賞しました。皆様ご支援ありがとうございました！

CONTENTS

00　見てから読むか、読んでから見るか
インカ・ショニバレ CBE
《桜を放つ女性》

04　ミドコロドコ？
新収蔵品展

08　学芸員と、みてはなし。
ルイ＝ジョゼフ＝ラファエル・コラン
《海辺にて》

10　REPORT
ボランティア研修

11　LECTURE / FEATURE

12　CALENDAR / TIPS

福岡市美術館のリニューアルオープンと同時に、エスプラナードも新しいスタート切ってから、ちょうど1年がたちました。リニューアル1周年記念号（と、自分だけが心ひそかに呼んでいる）である今号には、さまざまな「時間」がつまっています。
今号でぜひ、注目していただきたいのは、新収蔵品。インカ・ショニバレCBEの《桜を放つ女性》は、リニューアルオープン展にきてくださった多くの方々に共感の声をいただき、1年の時を経て、制作年としても収蔵年としても「最新」の収蔵品となりました。また、《靴》の作品が人気のリサ・ミルロイは、リニューアルオープンを祝って、作品を寄贈してくれました。リサが福岡を初めて訪れた1990年から、今年で30年。かくも長き友情に、感無量です。偶然といえば偶然ですが、福岡市美術館最初の収集作品であるルイ=ジョゼフ=ラファエル・コランの《海辺にて》も今号の主役のひとつです。コランを収蔵した1974年から数えると45年以上の収集活動を凝縮した今号を、これからも皆様とよい時間を過ごせるようにと願いつつ、お届けします。

学芸課長　岩永悦子

インカ・ショニバレ CBE《桜を放つ女性》2019 年
Copyright Yinka Shonibare CBE, 2019. Courtesy of James Cohan Gallery, New York　Photo: 斗中慎太郎（Qsyum!）

当館に新しく仲間入りした作品たち

ミドコロドコロ？

福岡市美術館は収集方針を基準として作品を収集しています。毎年多くの方から作品をご寄贈いただき、機会をみて作品を購入してきました。2016年9月から2019年3月にかけて、当館はリニューアルのため長期に亘り休館しましたが、その期間も途切れることなく収集活動を続けてきました。

この活動により近現代美術では、「ふくおか応援寄付」の寄付金を活用した購入の他、作家のご遺族や作家本人、そして、所蔵家の方々からのご寄贈も多数あり、コレクションを充実させることが出来ました。今回の「新収蔵品展」では、2016年度の休館から2019年度の間に収集した作品の中から代表的な作品を展示します。年度によって収集した作品の傾向が異なるため、今回はその違いを比較する貴重な機会ともいえるでしょう。なお、開催時期は少し異なりますが古美術作品も2016年度から2019年度まで収集した作品の中から代表的な作品を公開します。

どれも見ごたえのある作品ばかりですので、どうぞお楽しみに！

文 学芸員（近現代美術担当）渡抜由季

ここでは、近年、福岡市美術館が収集した作品をご紹介します。これらの作品は「新収蔵品展」で展示します。ぜひニューフェイスを鑑賞しにご来館ください。

購入

仙厓義梵（せんがいぎぼん）（1750-1833）
《海老図》
江戸時代　19世紀

腰の曲がった海老は長寿の象徴として多く描かれたモチーフです。本図を描いたのは、ユーモアあふれる禅画で知られる仙厓義梵。賛によれば、「長生きしたければ酒食と色事を控えなさい」とのこと。松永コレクションで有名な耳庵翁旧蔵で友人からのお見舞いに贈られたというエピソードも伝わります。

文 学芸員（古美術担当）宮田太樹

2

1F

寄贈

《志野檜垣文擂座四方向付》（しのひがきもんるいざよほうむこうづけ）
（2018年度　石田敦子氏寄贈）
桃山時代　17世紀

所々に赤みをおびた乳白色の地に訥々とした筆使いで檜垣文をあらわします。本作は、桃山時代に美濃で焼かれた器で、元々は料理を盛り付ける向付として作られたのが、ある時期から火入れとして使われるようになったようです。

EXHIBITION INFO

新収蔵品展（古美術）
◆会期 2020年4月14日（火）～6月14日（日）
◆会場 1F 古美術企画展示室

寄贈の理由を考えながら見ると一層楽しめるかも

文 学芸員（近現代美術担当）渡抜由季

2F

EXHIBITION INFO

新収蔵品展（近現代美術）
◆会期 2020年4月28日（火）～6月28日（日）
◆会場 2F 近現代美術室B

寄贈

殿敷侃（とのしきただし）
（2018年度　天野紋子氏寄贈）
《自画像のある風景》
1969年

目の覚めるようなショッキングピンクと黒のコントラストに、反復する記号と数字が並べられています。これは当時国鉄職員として勤務していた殿敷が東京で本格的に美術を学びたいと希望していた頃に描かれました。

1

寄贈

宮﨑準之助（みやざきじゅんのすけ）
（2016年度　田部光子氏寄贈）
《腕木のない馬車》
1974年

実はこの車輪は本当に動かすことが出来ますが、腕木はついていないため道具としては使えません。宮崎は労働に使われる道具をあえて作品として発展させ、美術品は静的なものという従来のイメージを変えようとしました。

NEXT PAGE
Lisa Milroy
次ページでは、実際の寄贈者からのコメントを掲載

寄贈

オチオサム
（2018年度　個人寄贈）
《スフィンクス》
1985年

文 学芸係長 山口洋三

前衛グループ「九州派」の代表的画家であるオチオサム。オブジェや絵画など、様々な作品を制作しましたが、失われた作品が多く、創作の全容はあまりよく知られていません。あたかも子供の絵のような本作は、オチの創作を知る上で貴重な作例となるかもしれません。

感謝と敬愛の気持ちをお届けしたく最近の作品を寄贈しようと思いました

INTERVIEW
Lisa Milroy

Lisa Milroy
（1959年カナダ生まれ）

1978年よりロンドンに住み、ゴールド・スミス美術大学などに学ぶ。80年代後半より英国を代表する美術家として、国内外の現代美術展に出品。ありふれた、身辺的な事物を反復して描くことで、日常への愛情を細やかに表現する。

© Lisa Milroy, Photograph by FXP Photography

寄贈

リサ・ミルロイ
（2019年度　作家寄贈）
《黒》
2012年

オフホワイトの背景にさらりと描かれた黒いドレスが影を落としています。作家は日用品に親しみと愛情をもって描いていますが、位置や間隔、置かれた環境はとても作為的であり新しい見方を私たちに提示しています。

今回寄贈された作品《黒》をどのように見て欲しいですか？

私は、静物画を中心に芸術活動を行っています。1980年代は、福岡市美術館の作品《靴》のように、オフホワイトの地に日常の生活用品を主題として描いていました。その後私のイメージは、設定された環境下における物の描写も含め、広がりをみせました。風景や建築、人々や身体も同様です。

私の静物画に対する考え方と作風が多様化するにつれ、様式の幅が広がりました。最近の作品では、身体表現を基にする要素を使って、集中して絵画インスタレーションに取り組んでいます。私の活動は、静寂と動きの間に見られる関係性、また絵画を作ること、見ることの本質に魅了され続けています。

私の絵画作品が、物体の触感と実質性を通して、絵画の楽しみ方を鑑賞者に提供できることを、また私の作品のイメージと描き方によって、鑑賞者が絵画作品から自分自身の考えや気持ちを汲み取り、より自由に気付いてくれたらと願っています。

衣類や靴などは、1980年代以来私の作品に繰り返し出てくるモチーフです。これらは、アイデンティティに関する問いかけ、同じものと違うもの、不在と実在、そして柄や色の快楽も含めたダイナミズム（＝躍動的うねり）の探求へと導いてくれます。

『コロナ』。リサ・ミルロイからの贈物

実は、寄贈作品の中には、作家本人から贈られたものもあります。今回自作を寄贈されたリサ・ミルロイさんに、お話をうかがいました。

今回、美術館にあなたの作品を寄贈しようと思ったのはどうしてですか？

私のいくつかの絵画作品を含む巡回展である「イギリス美術は、いまー内なる詩学」のオープニングに合わせて、1990年に福岡市美術館に来たのが、私の初めての来日でした。美術館の学芸員の方々はとても暖かく、大変お世話になりました。展覧会が始まり、その後九州を巡る旅程を組むことも協力していただきました。

この来日で、私自身の静物画に取り組む活動につながる、日本文化への敬意と理解を深めるために、芸術家として定期的に日本に戻ってくる必要があると思ったものです。それ以降、私が知り合った学芸員のみなさんとの間に友情が生まれ、また日本と日本人に対する心象は、私の取り組みを活性化し形作ることにいつも役立ってきました。

福岡市美術館が「イギリス美術は、いまー内なる詩学」出品の私の絵画作品2点を購入してくださったことを光栄に思っています。また私の作品のひとつ《靴》がその後年を経ても美術館で複数回展示されていることに感動していますし、ましてや美術館のポストカードのひとつに取り上げられるなんて！　さらに《靴》が、2019年に大規模改修工事を終えた後に開催された重要なコレクション展の中でも展示され、また素晴らしい図録『福岡市美術館ザ・ベスト ー これがわたしたちのコレクション』（右図）にも掲載されたことに深く感銘を受けました。

こういったことを受けて、福岡市美術館がいつも私の作品に対して支援してくださり興味を示し続けてくださることに対し、感謝と敬愛の気持ちをお届けしたく、きっと作品《靴》と調和するだろう衣類をモチーフとする一連の作品群から、最近のドレスの作品2点を寄贈しようと思いました。

2019年7月、美術館との友好関係をさらに新たにするため、福岡まで旅をしました。そこでは古い友人を訪ね、新しい学芸員にも出会うこととなりました。私の作品《靴》がコレクション展示室で、他の著名な所蔵作家とともに展示されているのを見てドキドキしたものです。

リサ・ミルロイと自作の《靴》。30年来の友人である岩永学芸課長と共に。
Photograph by Jacqueline Poncelet

学芸員と、みてはなし。

見て話した人

学芸員 × ダンサー

DATA

作品名	海辺にて
作者名	ルイ＝ジョゼフ＝ラファエル・コラン
生没年	1850-1916
制作年	1892
技法・素材	油彩・画布
サイズ	297.0 × 446.0cm

EXHIBITION INFO

コレクションハイライト

◆**会期** 通期

◆**会場** 2F 近現代美術室 A

マニシアさん

ダンサー、振付家。ニューヨークでの活動後帰国し、障害のある人とプロのダンサーやアーティストのコラボレーショングループ「WaLE wale wOrks（ワレワレワークス）」を結成。障害のある人や一般の人たちと踊るコミュニティダンスを実践中。

福岡市美術館のコレクション第1号として、1974年に購入されたルイ＝ジョゼフ＝ラファエル・コランの作品《海辺にて》。今回は、とても大きなこの絵の前で、ダンサーであるマニシアさんと学芸員が、見て話しました。

マニシア　最初に思ったのは、「羨ましい！」ということ。海のそばで、裸足で裸なんて気持ちよさそう！　この絵を見ていると、揺れる感じがイメージできます。それは、この人達の髪や体がなびいているからでしょう。

渡抜　コランの弟子によると、海辺ではなくアトリエの庭で地面に水色の布を敷き、その上でモデルを描いたという記述が残っています（註 1）。もしかしたら、この海辺は画家がイメージした風景かもしれませんね。
この絵の中で、女性たちは、手を広げて輪になって踊っていますが、この踊りにはどんな意味があるのでしょうか？

マニシア　輪はひとつの空間を構成して、そこが安全な空間になります。いったんそれができれば、手を離しても、そこは安心できるスペースとして確保されます。この手を伸ばしている女性は、手の先の人を誘っているのかな？
私もフラットな場所で行うワークショップでは、これらの動きを取り入れます。日本人は誘ってもすぐには入ってくれないんですけれど、恥ずかしがり屋の背中がちょっと笑いを誘ったり、誘われなくて安堵したり、私も誘ってほしかったという気持ちを呼び起こしたりして、空間に一体感が生まれるのです。

渡抜　この絵の下絵を見ると、この女性は誘っていなくて、円環が閉じています。確かに空間そのものが、閉じた印象を受けますね。
評論によると、この女性たちは妖精（ニンフ）を描いたとする一方で、女性たちのウエストの細さから、ふだんコルセットで体を締め付けていた当時の現実の女性が関係するのではないかという説もあります（註 2）。

マニシア　当時は、社会的にも女性が表には出てはいけない時代ですよね。それらを意識した作品なのでしょうか？　私が考えるのは「もしこの場に、一人でも男性がいたらどうなるのだろう？」ということ。女性たちの振る舞いも変わって、この絵が発するメッセージも変わってきそうです。女性だけだから、この非日常で自由な感じが出るのかしら。
私だったら、この絵の前でスーツ姿の男性に踊ってもらいたいです。ネクタイを緩めて踊ったら、なにかから解放されるかもしれません。

註 1　黒田清輝　「画壇叢話」『精華』第一巻第一号、1903 年、pp.12
註 2　三谷理華　「コルセットのニンフたちへのオマージュ－ラファエル・コラン≪海辺にて≫をめぐる一考察－」『ラファエル・コラン展図録』福岡市美術館、1999 年、pp.26-32
註 3　アレッサンドロ・コンティ（著）岡田温司ほか（訳）『修復の鑑』ありな書房、2002 年、pp.26-32

海辺にて

渡抜　保存管理の立場から言うと要相談ですが（笑）、確かにおもしろそう！

マニシア　ところでこの絵は、紗がかかったような色合いが、幻想的で美しいですね。だからこそ、海の音を、自分の中で響かせることができるように思います。

渡抜　この絵には「鉛白」というものが使われています。鉛を錆びさせて生まれた白から作った顔料です。この鉛白は、時間が経つとだんだん変色していくことが知られています。この絵も、離れてみると色が変わって透け感が生まれているのが分かります。

マニシア　画家は、時間の変化を計算に入れていたのかしら？

渡抜　コランが意図していたかは分かりません。が、鉛白が変化しやすいことは当時も既に知られていましたし、もっと昔にそれをよしとしている画家もいました（註 3）。
この作品は 1892 年、19 世紀末のものです。福岡市美術館では 20 世紀以降の作品を「近現代美術」とする収集方針があり、厳密にいうとこの方針からは外れます。しかし日本の近代美術に与えた影響が大きいという理由で、特別に購入されました。黒田清輝など、明治時代の重鎮と言われる画家たちの中には、フランスでコランの教えを受けた人も多くいます。

マニシア　なるほど。ダンスの世界でもそうですが、西洋と日本の文化が行き交ったタイミングがあるのですね。

渡抜　ヨーロッパで日本の文化が知られるようになったきっかけのひとつに1867年のパリ万博があったと言われています。コランもパリ万博が日本を知るきっかけだったかもしれません。ところでダンスでもそのような歴史があるのですか？

マニシア　ごく大まかに言うと、ルネサンス時代のダンスの後に、みんながよく知るクラシック・バレエが生まれます。これらはもともと王侯貴族の前で披露されるもの。その後、窮屈な衣裳やトウシューズを脱いで踊るモダンダンスが生まれ、もっと自由な表現を求めてコンテンポラリーダンスが踊られるようになります。この頃は、海外でも、日本の舞踏を「Butoh」として取り入れた人たちもいました。
当然ダンサーは訓練を受けた人たちだったわけですが、稽古をしていない人たちも舞台に上がりたい！と 30 年くらい前に始まったのが、私がいま取り組んでいるコミュニティダンスです。障害のある人や寝たきりの子どもなど、彼らの身体の特性を生かして、アートとしてのダンスを制作しています。
そうそう、美術館とダンスと言えば、美術館でパーキンソン病の人たちとダンスをするという活動があります。もともとはイタリアから始まった活動なのですが、金沢 21 世紀美術館でも行われたことがあります。それにインスパイアされて、私もここ福岡市美術館で、障害者施設「工房まる」のみなさんとダンスをしました。その時に感じたのは、舞台装置としての美術館の可能性。みんないわば異空間とも言える美術館で、スタジオで練習していた時とは違う力を発揮していました。

渡抜　確かに、美術作品も「額縁に入る」「台座に置かれる」などうやうやしく扱われることで違って見えるということがあります。これもある意味で、舞台装置ですね。

マニシア　今日、展示室に来る時に、ふだんは一般の人が入れない緑一色で塗られたバックヤードを通らせていただきましたが、あのカラーリングにも意味があるように思いました。あそこでパワーをもらって準備し、展示室に入った瞬間にアートのプロとして舞台に立つイメージが浮かびました。

渡抜　あのコントラストの大きさは身体的な影響もありそうですね。ふだんどうしても学芸員の仕事は言葉や視覚にひっぱられがちなので、マニシアさんのように「身体で考える」と違った風景が見えそうだなと思いました。

マニシア　脳だって内臓ですからね！

学芸員
（近現代美術担当）
渡抜由季

作品保存修復が専門。

REPORT

新しいボランティアさんたちがデビューします

長かった冬の研修。待ちにまった春の訪れ。

昨年の夏、当館では、5年に一度のボランティア募集を行いました。予想を上回る多くのご応募をいただき、面接を突破した108名が研修へと進みました。「福岡市美術館のボランティア研修はすごく厳しいらしい・・」なんて噂があるらしいのですが、果たして実のところは？今回は当館ボランティアになるための研修についてご紹介します。

研修は大きく2つに分かれています。まずは9月から12月まで行った全10回の全体研修。そして、続く1月から3月には各ボランティアグループ（ギャラリーガイド・新聞情報・図書整理・美術家情報整理）に分かれての研修です。研修だけで半年もかかるのかと驚く方もいるかもしれません。ただ、当館ではこの研修期間をとても大切にしています。

まず全体研修ですが、当館のコレクションの講義を中心に、教育普及活動、ボランティアの歴史、当館のリニューアルまで幅広い内容を扱いました。講義は基本的に学芸員が各専門分野を担当しましたが、中でも最後の研修は株式会社ミライロから池幸（いけみゆき）さん、近藤茜さんをお招きした特別講義を開催。ご自身も車いすユーザーの池さんから、経験談を交えながら美術館での「障害別の困りごと」について具体的にお話していただきました。また聴覚障害、視覚障害を体験し理解する活動もあり、とても実践的で有意義な講義となりました。

1月からは各グループに分かれての研修です。例えばギャラリーガイドボランティアは、所蔵品についてディスカッションしたり、実際に作品の前でトークしたりする練習を繰り返しました。皆さん緊張しながらも、堂々とした様子でリハーサルを乗り切り、終わったあとのすがすがしい笑顔が印象的でした。研修を進めるなかで、少しずつボランティア同士のつながりも生まれ、新しい仲間ができることも、研修の醍醐味です。

4月からは、研修を終えた新人たちと、現在活動中のボランティア、総勢185名での活動となります。新しい風が吹くことに期待しながら、さらに充実したボランティア活動を目指していきます。

学芸員　教育普及担当　﨑田明香

新聞情報ボランティアのグループ研修の様子

先輩たちと一緒に新聞の美術関連記事を探して切り抜きます。

ギャラリーガイドボランティアのグループ研修の様子

作品の前で緊張しながらギャラリーツアーの練習中。

全体研修の様子

講師の池幸（いけみゆき）さん、近藤茜さんが、車いすの方へお声がけするポイントを実演。

グランドメゾン浄水ガーデンシティ フォレストゲートⅢ

グランドメゾン The大濠

グランドメゾン百道浜 OCEAN & FOREST

グランドメゾン薬院レジデンス

時と共に美しく、積水ハウスの分譲マンショングランドメゾン

GRANDE MAISON グランドメゾン

「グランドメゾン倶楽部」会員募集中

お問い合せは 0120-143-377　グランドメゾン　検索

SEKISUI HOUSE 積水ハウス株式会社

LECTURE

つきなみ講座

April-June 2020

毎月１回、当館館員が、自身の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。聴講無料。直接会場にお入りください。

4月

「藤田嗣治と戦争画ー《神兵の救出到る》を中心に」

- 日時　4/18（土）15:00~16:00
- 会場　レクチャールーム（定員 54 名）
- 講師　岩永悦子（学芸課長）

5月

「平成元年から見る現代美術（所蔵品を中心に）」

撮影:山崎信一

- 日時　5/16（土）15:00~16:00
- 会場　レクチャールーム（定員 54 名）
- 講師　山口洋三（学芸係長　近現代美術担当）

6月

「高齢社会におけるミュージアム」

- 日時　6/20（土）15:00~16:00
- 会場　レクチャールーム（定員 54 名）
- 講師　鬼本佳代子（主任学芸主事　教育普及担当）

福岡市美術館のシニアプログラム「いきヨウヨウ講座」

FEATURE

福岡ミュージアムウィーク2020

5/16（土）ー5/24（日）

「国際博物館の日」5月18日の前後９日間、福岡市では18のミュージアムが入館割引やプレゼント、イベントを開催します。この機会をお見逃しなく！

子ども探検隊

小中学生対象のバックヤードおよびギャラリーツアー

- 日時　5/16（土）10:30~11:30
- 集合場所　1階 ロビー（定員 20 名）
- 参加費　無料　※右記応募先まで要申込。5/7 締切
- 対象　小学生と中学生

講演会「変わる？ミュージアム ～ ICOM 京都大会から見えてきたもの」

2019年９月に京都にて開催された ICOM 世界大会。その報告と見送られた博物館定義について講師と当館学芸員が対談します。

- 日時　5/23（土）13:30~15:30
- 講師　関谷泰弘（ICOM 京都大会準備室）
- 会場　ミュージアムホール（定員 180 名）
- 参加費　無料　※下記応募先まで要申込。5/7 締切

初めてのベビーカーツアー

小さいお子さんと一緒に作品を見たい！という方のためのツアーです。

- 日時　5/24（日）❶10:00~10:40、❷11:00~11:40（❶❷は同内容）
- 集合場所　２階ロビー（定員各 5 組）
- 参加費　無料 ※下記応募先まで要申込。5/7 締切
- 対象　0～1歳半くらいまでの子どもと保護者（ベビーカーか抱っこ紐で移動します。ベビーカーは貸出可）

応募先

件名に「イベント名」を記入し（ベビーカーツアーは時間も）、参加者全員の名前（子ども探検隊は最大２名まで）、年齢、代表者（子ども探検隊は保護者）の電話番号・メールアドレスをお書きのうえ、workshop@fukuoka-art-museum.jp までお送りください。応募多数の場合は抽選。

この他にもたくさんのプログラムを開催予定です。

詳細はこちら！ ▶ 福岡ミュージアムウィーク

＼ 福岡市美術館ミュージアムイベント協賛企業・団体 ／

SEKISUI HOUSE　福岡銀行　QTnet　西部ガスグループ いつもの朝と、新しい明日を。　ウエスト

We Find the Way 日本通運 NIPPON EXPRESS　九州電力 ずっと先まで、明るくしたい。　人につくす、街につくす。セイワ世研　ロックに。自由に。TNC　草苑

ESPLANADE 199
福岡市美術館 季刊誌 エスプラナード 199号 発行日・2020年4月1日
制作・福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社（西日本新聞社） 編集・浅野佳子（nico edit） デザイン・川路あずさ 印刷・株式会社西日本新聞印刷
発行・福岡市美術館 〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 TEL 092-714-6051 FAX 092-714-6071 www.fukuoka-art-museum.jp
APRIL. 2020

CALENDAR

2020

4 APRIL

5 MAY

6 JUNE

東光院仏教美術室

- 通期 東光院のみほとけ

松永記念館室

- 開催中・4／12 茶道具の「次第」
- 4／14・6／14 春の名品展
- 6／16・8／30 コプト裂と古代オリエント文物

企画展示室

- 開催中・4／12 近世絵画名品展
- 4／14・6／14 田中丸コレクション うつわ歳時記
- 6／16・11／15 仙厓展
- 4／14・6／14 新収蔵品展
- 6／16・8／30 芸術とパトロン

コレクション展示室 古美術

近現代美術室C

- 開催中・4／19 コレクションハイライト②
- 4／28・通期 コレクションハイライト

近現代美術室B

- 開催中・4／19 渡辺千尋、朝倉文夫・摂・響子
- 4／28・6／28 新収蔵品展

近現代美術室A

- 開催中・4／19 コレクションハイライト①
- 4／28・通期 コレクションハイライト
- 開催中・4／19 近代美術と九州第4期
- 4／28・6／28 平成元年の日本人像

展示替えのため休室

コレクション展示室 近現代美術

特別展示室

- 開催中・4／12 第51回福岡市美術展

TIPS

おまけ美術館

福岡市美術館をもっと楽しむための、うれしい小さな情報を取り上げます。

美術館にはいろいろな仕事があります。今号では、展示室の隅でいつも控えている監視員さんに質問しました。

○ 印象に残るエピソードは？

体験型だった梅田哲也展を見たお客様が、「職場でイヤなことがあって、ズル休みをして見に来たのですが、なんだか頭の中のものがリセットされました。もう少しがんばってみます」と声をかけてくださいました。（I.J. さん）

「梅田哲也 うたの起源」展の様子
Photo：三中慎太郎（Qsyumi）

お客様が、ダリの絵を見て涙を流されていたことが印象に残っています。そっと見守りました。（K.M. さん）

オタク系の特別展で、同級生と思われる男性グループが、中高生のように盛り上がっていたのがほほえましかったです。（Y.K. さん）

○ 監視の仕事の醍醐味は？

お客様の気分を害することなく、作品保護のための適切な注意ができた時、またお客様と学芸員との橋渡しができた時に、役に立った充足感があります。（T.K. さん）

○ 反対に難しい点は？

楽しくワイワイとご覧になりたいお客様と、静かにご覧になりたいお客様との兼ね合いをどうとるかが難しいです。（同意見多数）

本誌掲載の催しは当館主催のものです。他の催しやイベントの詳細は、当館ウェブサイトで随時お知らせします。また、催しの名称、会期などは変更となる場合がございます。

ふくおか応援寄付

ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による寄付）を募集しています。
福岡市外にお住まいの方で一定額以上の寄付をされた方には返礼品をお送りします。
みなさまからの応援をお待ちしています！

利用案内

開館時間 9:30～17:30
（7月～10月の金・土曜日は 9:30～20:00）
※入館は閉館の30分前まで。

休館日 月曜日 / 年末年始（12/28～1/4）
※月曜日が祝日・振替休日の場合は
その後の最初の平日

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051（代表） FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM